

研究・調査報告書

報告書番号	担当
150	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol risk management in college settings: the safer California universities randomized trial. 大学におけるアルコールのリスク管理について カリフォルニア大学におけるランダムイズ試験より	
執筆者	
Saltz RF, Paschall MJ, McGaffigan RP, Nygaard PM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Prev Med. 2010 Dec;39(6):491-9.	
キーワード	
大学、リスク管理、予防戦略、アルコール中毒症、カリフォルニア	
<p>要 旨</p> <p>背景： 大学生において潜在的な環境戦略は大量飲酒者を減らすために推奨されている。しかしながら今日では環境戦略は経験の無いデザインに限られていたり、サンプルサイズが不適當であったり、非常に数が少なかったりする。また、多量飲酒の起きる大部分の状況には注意の欠如があったりする。</p> <p>目的： 環境での予防戦略が学生の中毒やその発生を減らすための効果があるかを明確にすることである。</p> <p>方法： カリフォルニア大学を含む 14 の公立の大学、その半分は 2001 年にベースラインの調査をして以降、無作為に調査された。環境への介入は 2005 年と 2006 年の 1 年毎に半分の 7 つの大学において実施された。無作為で選んだ学部生への横断調査は完全なオンライン調査で連続した秋の学期 (通例 15~18 週) に 2003 年から 2006 年において実施された。キャンパスと(カリフォルニア各地に点在する州立総合大学) カリフォルニア大学の 8 つのキャンパスの周辺地域、そして 6 つのカリフォルニア大学系列が対象とされた。この調査は 14 の大学に所属する学部生 (年間ひとつのキャンパスあたり 500~1,000 人) が無作為で選ばれた。環境の介入は実施を妨害する集団、未成年を誘惑する集団、運転に影響を及ぼすチェックポイント、社会的なホスト条例を含んだ、また視覚的に環境戦略を訴えるために地方のメディアやキャンパスを使用した。主な評価基準は、秋の学期の間に 6 つの異なった場所 (住居でのイベント、キャンパスでのイベント、宗教や社会的なイベント、休み期間中のキャンパスの寮、家でのイベント、バーやレストラン、アウトドア) で中毒を起こす学生が飲酒した機会の比率、中毒症に至る最後の飲酒機会がどこであったかとした。</p> <p>結果： キャンパス内や、バーやレストランでの中毒症の発生やそうなる前の段階での発生を抑えるために、対照群と比較すると大学への介入は効果が認められた。中毒になりそうなる前の段階においては、休み期間中のキャンパスのイベントが(OR : 0.81, 95%CI : 0.68, 0.97); バーやレストラン(OR : 0.76, 95%CI : 0.62, 0.94)、その他の設定では(OR : 0.80, 95%CI : 0.65, 0.97).であった。その他の設定では中毒症は増加しなかった。またそれ以上の強い介入を実施した大学では効果が見られた。</p>	